

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 観察～鱗粉と花粉～／札幌市立手稲中央幼稚園（北海道）

興味の対象を「よく観たい！もっと知りたい！」という子どもたちの思いを叶えるために、どのような教材の工夫をされていますか？

今回は、チョウの鱗粉やヒヤシンスの花粉を見つけた子どもたちの姿に注目したエピソードをご紹介します。

日頃から興味の対象に出合った時に、虫眼鏡、拡大レンズ付き観察ケースなど、よく観るための道具を自分で選んで関わってきたからこそその観察の姿と気づきを読み取ることができます。



### ● キアゲハの鱗粉とヒヤシンスの花粉／5歳児

#### ✦ エピソード1：キアゲハの鱗粉

- 春と夏にキアゲハの幼虫を飼育。羽化したばかりですぐには飛べない様子に、虫眼鏡を持ち出して観察し、鱗粉に注目している様子があった。
- 日頃から虫捕りを楽しんでいるAさんが、「この粉が無くなったら羽の色が薄くなって空を飛べなくなるから羽は掴んだらダメだ」とみんなに伝えた。他の子どもも、そのことを受け入れて、羽を掴まないように、気をつけて手に乗せて観察をしていた。
- よく観た子どもたちは、その後「元気でねー」と空に放した。



ここに黄色い粉が付いているのが見える



キアゲハ、虫眼鏡で見てみよう！



ラベンダーの花も虫眼鏡で見てみよう

#### ✦ エピソード2：ヒヤシンスの花粉（2月）

- 虫眼鏡でいろいろな物を見るのが好きなBさんが保育室で栽培しているヒヤシンスの花を覗き込み、「ここにチョウチョの粉みたいのが見える!」と言った。

- その言葉を聞いて子どもたちは、いつものように虫眼鏡での観察が始まった。担任は大きく見えて仲間と共有しやすいように電子ルーペを使って見せたが、液晶で見える画面にはさほど興味は示さず、子どもたちは、虫眼鏡の順番待ちをするほどだった。一枚のレンズの先にある新たな発見を見ようとワクワクする姿に、目の前の『ホンモノ』が惹きつける力や、『ホンモノ』を間近に見たり直接触れたりする経験の積み重ねが、いろいろな環境に自分から関わり、体験からの気づきを伝え合う姿につながることを実感した。



ここにチョウチョの粉みたいのが見えるよ



保育者が持つ電子ルーペでヒヤシンスを観察する子ども



ヒヤシンスのおしべ・めしべ・花粉

#### ✦ この遊びにおける保育者の願い・環境構成のポイント

##### ● 保育者の願い

新たな発見への興味関心を高めたり、気づきを伝え合ったりする

##### ● 環境構成のポイント

- 虫眼鏡と虫を観察するスコープ、顕微鏡などを子どもが自分でいつでも取り出して使える場に年間を通して用意しておく。
- 虫眼鏡より大きく見えることで、さらに面白さが増したり、友達と発見したことを共有したりしやすいように電子ルーペを用意する。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <https://www.sony-ef.or.jp/preschool/>」